

水産物の国際認証制度に関するプレスセミナー

FAO水産認証ラベル・養殖認証ガイドライン

8月17日(水) 10:00-12:00

東京海洋大学白鷹館

阪 口 功 (学習院大学)

アウトライン

- 水産認証エコラベルとその仕組み
- 水産認証ラベルのガバナンスの全体像
- FAOガイドライン
- GSSIベンチマーキング
- 日本の課題と東京オリンピック

水産エコラベル一覧

天然 エコラベル	発足年 本部	主導者	養殖 エコラベル	発足年 本部	主導者
MSC 	1996 ロンドン	WWF ユニリーバ	ASC 	2010 ユトレヒト	WWF Int'l Trade Initiative(ID H)
RFM 	2010 アラスカ	ASMI	BAP 	2003 ポーツマス	Global Aquacultur e Association (GAA)
IRF 	2008 レイキャビッ ク	Fisheries Association of Iceland(FAI)	AEL 	2010 京都	日本食育 者協会？
MEL(日本) 	2007 東京	大日本 水産会？			

水産認証ラベルの仕組み

水産ラベル⇒消費者・リテールの選択⇒持続的な漁業

漁業認証＋加工流通管理(COC)認証

2種類の認証



■ 漁業に対する「MSC漁業認証」と...



■ 水産物の水揚げ以降のサプライチェーンに対する「MSC CoC認証」

(出典: MSC)

水産認証エコラベルの重要ポイント

☆大前提：非持続的なものにラベルが付与されてはならない☆

But...

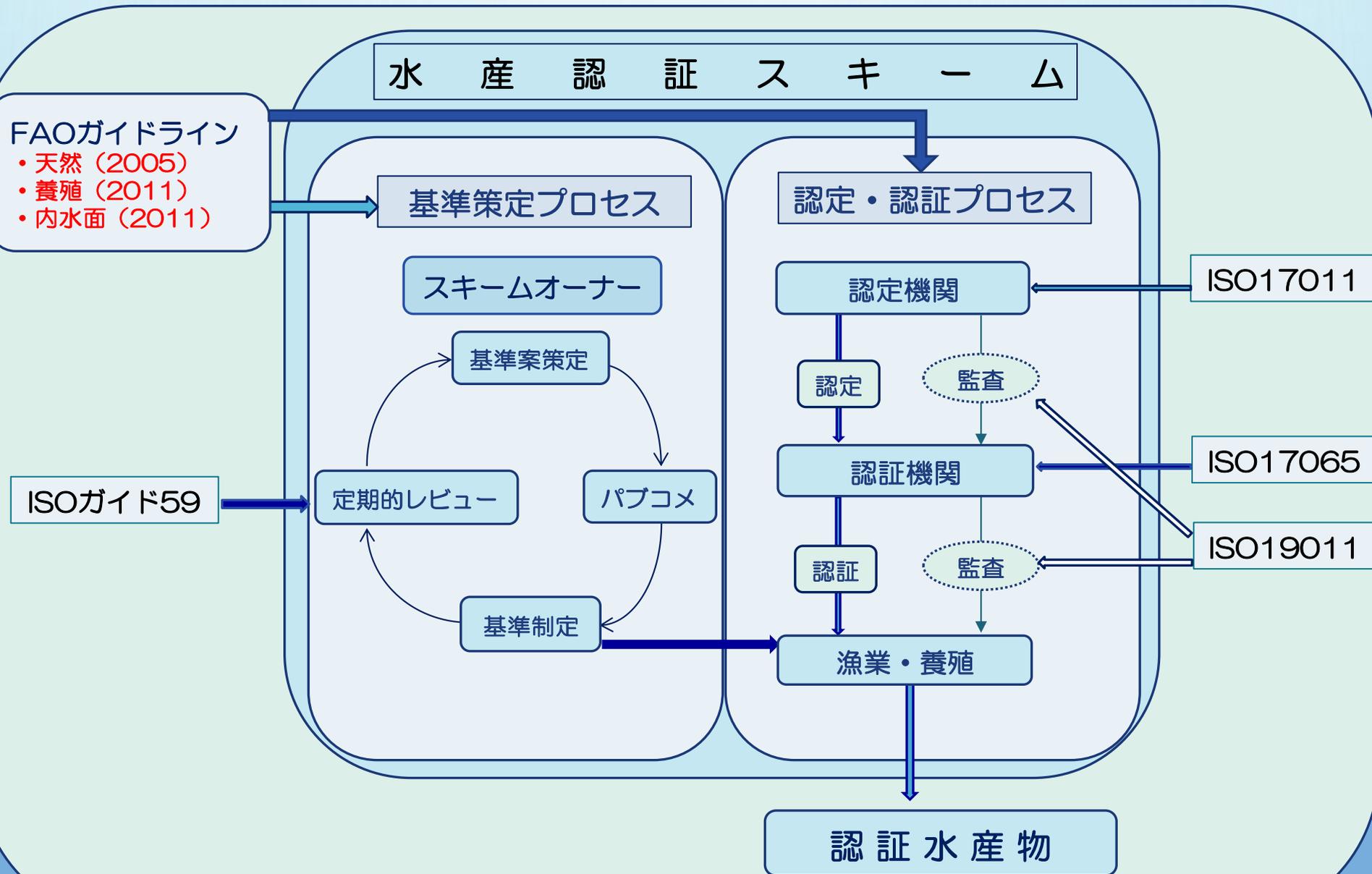
- ラベルの「認知度」を巡る競争
- 認証スキームの基準の「厳格性」と企業の参加のトレードオフ
- ラベル使用料が運営団体の「収入源」
- 認証機関（CAB）は、審査が厳しいと「顧客獲得」が難しくなる

認証基準・審査を緩めるインセンティブの存在

ISO諸規格とFAOガイドラインの誕生

- ① 基準の厳格性
- ② 基準策定の透明性
- ③ 認証機関(CAB)の独立性
- ④ 審査過程の透明性

水産認証エコラベルの全体図



FAO水産物エコラベルガイドラインの誕生

- MSCに反発する北欧諸国のイニシアチブ
- 水産認証ラベルのボトムラインを設定

but かなり厳格 ⇒ グローバルな対抗業界ラベルが存在しない

- ISOガイド59：標準化のための優れた実施基準
- ISO17065：認証機関（CAB）に対する要求事項
- ISO17011：認定機関に対する要求事項
- ISO19011：監査のための指針

+

- FAO責任ある漁業のための行動規範（1995年）



FAO水産物エコラベルガイドライン（2005）

FAO養殖認証に関するガイドラインの誕生

- ISOガイド59：標準化のための優れた実施基準
- ISO17065：認証機関（CAB）に対する要求事項
- ISO17011：認定機関に対する要求事項
- ISO19011：監査のための指針

+

- FAO責任ある漁業のための行動規範（1995年）と技術指針

+

- コーデックス委員会・食品輸出入検査認証の原則（1995年）
- 国際獣疫事務局（OIE）水生動物衛生コード（1995年）
- ISO22000シリーズ：食品安全マネジメントシステム
- ISO16665：水質－軟質海底大型動物相の定量的サンプリング及びサンプル処理の指針
- ISO23893－1：水質－魚の生化学的及び生理学的測定－パート1 魚のサンプリング、サンプルの扱いと保存



FAO養殖認証に関する技術的ガイドライン（2011）

ISO17065要求事項（抜粋）

➤ 公平性のマネジメント(4.2)：

- 商業的、財務的、その他の圧力の排除
- 公平性に対するリスクの継続的特定とその排除・最小化の実証

➤ 評価（7.4）

- 審査結果はレビューの前に文書化、審査担当者以外の者がレビュー

➤ サーバーランス（7.9）

- 認証対象に対する定期的な監査

➤ 異議申立（4.6&7.13）

- 文書化されたプロセスとその公開
- 認証活動に関与しなかった者がレビュー
- 異議申立の結果の申立者への通知

水産認証スキームの認証・認定機関



MSC

RFM/IRF

MEL

オーナー

MSC

ASMI/FAI

大日本水産会

認証機関

多数
(ISO 17065)

Global Trust
(ISO 17065)

水産資源保護協会

認定機関

ASI
(ISO 17011)

INAB
(ISO 17011)

大日本水産会

養殖認証スキームの認証・認定機関



ASC

BAP

AEL

オーナー

ASC

Global
Aquaculture
Association
(GAA)

日本食育者協会

認証機関

多数
(ISO17065)

多数
(ISO17065)

水産資源保護協会

認定機関

ASI
(ISO17011)

IAF
(ISO17011)

水産資源回復
管理支援会

FAO水産ガイドラインのポイント

— 認証機関と認定機関 —

➤ 認証機関

- ラベルスキームのオーナーからの法的、財政的独立性。
- 認証機関とそのスタッフが、評価対象漁業に商業的、財政的、その他の利害を有しないこと。
- 異議・苦情処理手続きの公開と独立公平委員会の設置
- 定期的監査の実施

➤ 認定機関

- 既得権益からの独立と商業的、財政的、その他の圧力からの解放
- 異議・苦情処理手続きの公開と独立公平委員会の設置

FAO水産エコラベルガイドラインのポイント — 漁業管理 —

➤ 管理システム

- 全漁獲死亡係数 (F) に基づく適切な保全管理措置の決定
- 資源管理目標値 (TRP) : 「MSY」
- 限界管理目標値 (LRP) : 「加入乱獲」を防止する値
- 管理当局が「適切な資源管理措置」を採択し、効果的に実施
- 「予防原則」 : 科学的情報の欠如を措置を遅らせる理由としてはならない。

➤ 認証対象の漁業

- 資源量が「乱獲状態」 (LRP以下) にないこと。

MSY(最大持続生産量)

漁獲量と自然増との均衡がとれ総量の減少なしに毎年漁獲可能な最大の生産量

FAO養殖認証に関する技術的ガイドライン

➤ 養殖動物の健康と福祉

- 国内法規、FAO健康管理技術ガイドライン・OIE関連基準による健康管理プログラムの実施
- OIE養殖動物健康コードの関連規定に基づく動物・遺伝物質の移動による病気及び病原体の移入伝染の防止
- 隔離、定期的モニタリング、自然界への伝染防止のための管理措置の実施

➤ 食品安全性：

- 汚染リスクの最小化ないし汚染を制御できるエリアでの養殖場の設置
- 餌の汚染の回避手続き（農薬、化学物質、生物的汚染）
- 国内法及び国際ガイドラインに従った獣医薬の利用
- 予防的獣医薬（特に抗菌剤）の利用禁止
- 養殖操業と投入物のトレーサビリティと記録保管

FAO養殖認証に関する技術的ガイドライン

➤ 環境の統合性

- 事前の環境影響評価の実施
- 悪影響の特定と国内法が要求する水準への制御・軽減措置
- 養殖場・養殖場外の定期的なモニタリングと悪影響の把握
- 環境改善措置がとられる適切な閾値の設定
- 養殖魚の自然環境への流入を回避する措置
- 孵化種苗の利用、天然種苗を利用する場合は責任ある方法での採捕
- 外来種はリスクが受容可能な水準にあるときのみ
- 遺伝子改変種利用の際の科学に基づくリスク評価、倍数体不可
- 環境への悪影響を最小化するための責任ある餌、添加物、化学物質、獣医薬の利用

➤ 社会経済的側面

- 国内労働法とILO諸条約の遵守
- 児童労働の禁止

GSSIベンチマーキング：自称準拠問題への対応

- ① FAOガイドライン準拠を認定
- ② 多様なステークホルダーの参加（業界、NGO、FAO）
- ③ プロGRESS

➤ パイロットテスト（2013～）



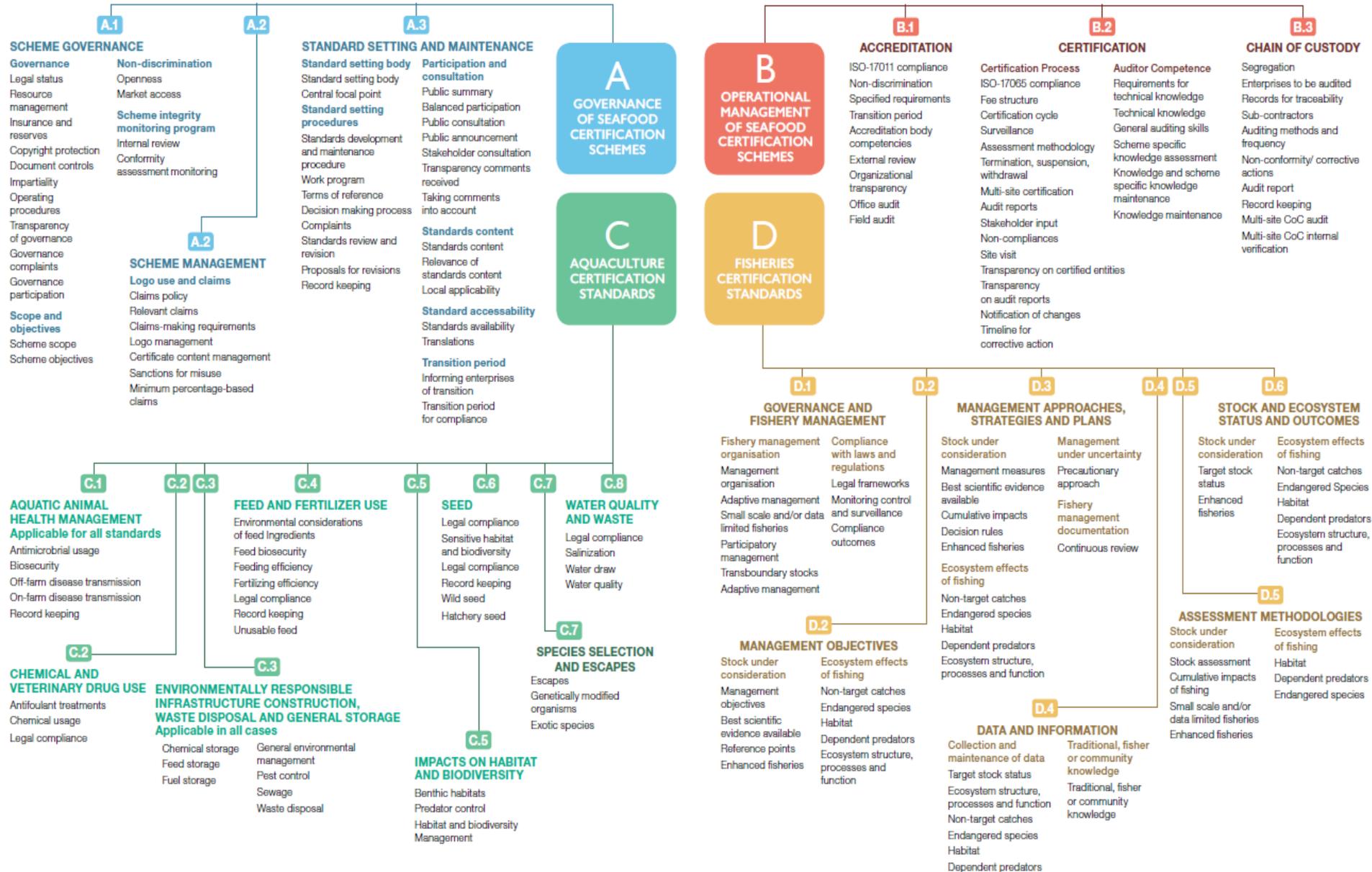
& ベトナムGAP・IndoGAP・Thai Agricultural Standard

※ 日本のMELとAELは不参加

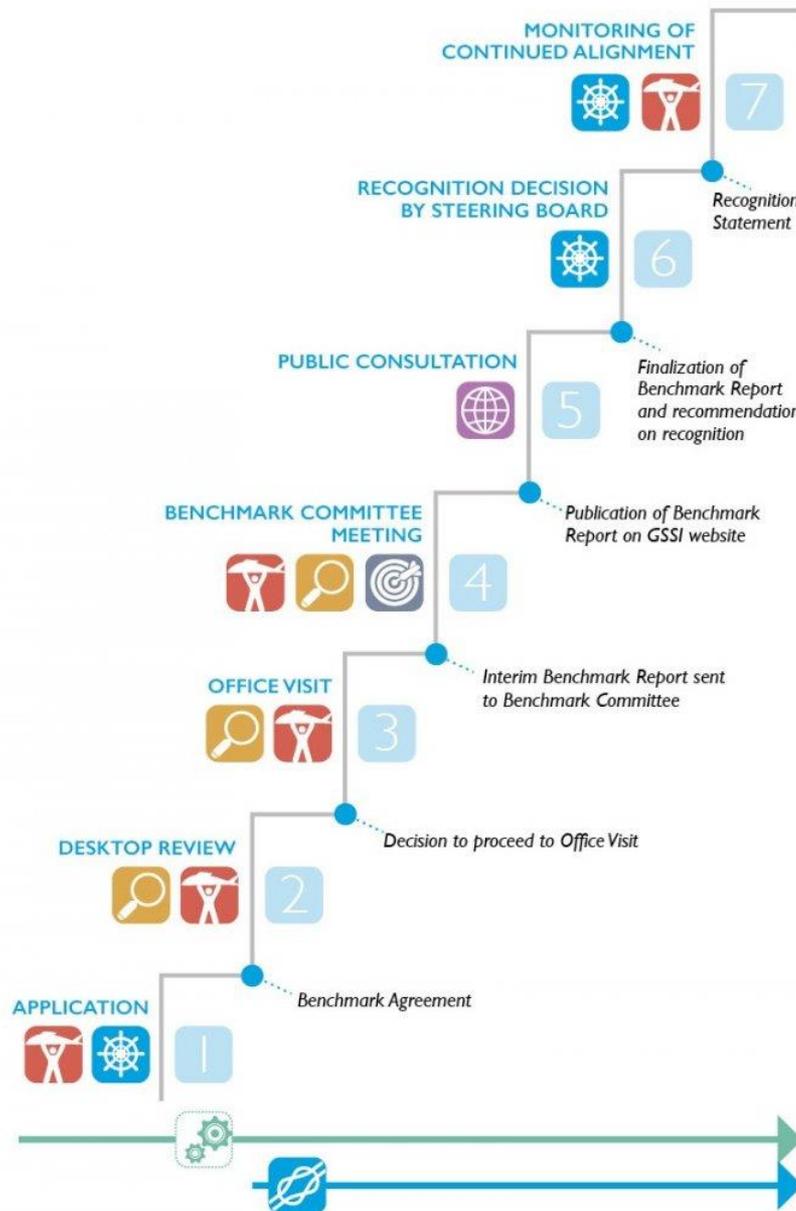
➤ スキームの完成（2015.10）

-  が初認定（2016.7）

GSSIベンチマーキングの全体像



From Application to Recognition: Key steps and responsibilities in the GSSI Benchmark Process



Who is involved?



Scheme owner

An organisation, which is responsible for the development, management and maintenance of a certification scheme.



Independent Experts

A team of professional, competent and trained individuals appointed by GSSI's Steering Board to conduct the assessment of a seafood certification scheme applying for GSSI recognition.



Steering Board Liaison

An appointed member of GSSI's Steering Board assigned to support and monitor the Benchmark Process on behalf of the Steering Board.



Benchmark Committee

A multi-stakeholder committee of technical experts appointed by GSSI's Steering Board to review the Benchmark Report and provide a recommendation on recognition.



Public

Members of the global seafood industry, NGOs, academics, international organizations, and general public.



Steering Board

GSSI governing body who is responsible, with the support of the Secretariat, for the general management and performance of GSSI.



GSSI Secretariat

Concerned with operations, facilitation and communication, and all other work that may be required for the operational management of GSSI and the Benchmark Process.

JAPAN PROBLEM !

➤ 漁業者の怠慢

魚を獲り尽くす日本人！

➤ 政府の怠慢

乱獲を放置する政府！

➤ 企業の怠慢

魚を売り尽くす日本人！

➤ 消費者の怠慢

魚を食べ尽くす日本人！

➤ 東京五輪でサステナビリティを推進 *立候補ファイルで公約

• 持続可能なレガシー の社会全体への浸透

• ISO20121 (イベント・サステナビリティ・マネジメント規格) 適用

⇒ 適正な 調達基準 を通じて資源管理・養殖管理の強化を促す機会！

東京オリンピック：危機 or 機会？

水産庁 東京五輪「多くの国産魚を」

水産庁は5日、会見を開き、東京五輪の食料調達基準について「エコラベル認証品に限らず、できるだけ多くの国産水産物が認められるよう」基準を作成する東京五輪組織委員会に働きかける方針を示した。

水産庁の菅家秀人企画課長は「東京五輪で供給される水産物が海洋管理協議会(MSC)や水産養殖協議会(ASC)認証の品に限ると報道があるが誤解」と説明。ロンドン、リオ五輪の食料調達基準は「持続可能性が求められたにすぎない」とし、両認証は持続可能な品の例に挙がる程度だとした。同庁の見方では日本の漁業は漁業法や資源管理計画ののっとり行われており、持続可能性に配慮している。公的な漁業規制に加え漁業者による自主規制もアピールし、組織委に持続可能性を訴える。

同庁は、大日本水産会の「マリン・エコラベル・ジャパン」(MELJAPAN)、日本食育者協会の「養殖エコラベル」(AEL)の認証を得たことを、漁業も五輪用に認められるよう呼びかける。両認証とも国連食糧農業機関(FAO)のガイドラインののっとりしていると強調する。調達基準が適用される心だった。

『みなと新聞』
2015年11月19日

水産庁は対策を

国民が国会議員から
見合合 ス流網漁禁止に伴う対策
から口を聞いた。省庁は代替漁
ク・マ 法の転換支援や失業者補

2020年「五輪で国産食材」ピンチ — 調達へ認証進まず

(『読売新聞』2015年7月27日)

五輪後にどういうレガシーを築きたいのか？

東京五輪のレガシー

「豊穡の海」を子どもたちに！

資源・養殖管理を強化し、持続的な漁業！

FAOガイドラインに沿った調達基準を！

ご清聴ありがとうございました

Isao Sakaguchi
(isao.sakaguchi@gakushuin.ac.jp)